

「仙台市図書館振興計画2022」中間案（概要版）

基本理念

めざす図書館像 「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」

■図書館像実現に向けた4つの方向性

- 1 「地域や市民に役立つ図書館」
- 2 「0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館」
- 3 「市民一人ひとりに利用しやすい図書館」
- 4 「自らの変革を進める図書館」

背景・策定に向けた方針

図書館振興計画（第二次）（平成29年度～令和3年度）

【主な取組】

- ・東日本大震災に関する資料の収集・提供
- ・学校貸出配送サービスや読書通帳の配布等による子どもの読書活動の推進
- ・ツイッターによる広報の運用開始
- ・中田サービススポットの開設
- ・貸出点数の変更
- ・全館における開館時間の30分繰り上げ

図書館振興計画2022（令和4年度～令和10年度）※令和7年度見直し

【主な取組】

- ・学校・家庭・地域等と連携した、子どもの読書活動を支える取組
- ・読書バリアフリー法を踏まえた誰もが使いやすい図書館サービスの推進
- ・図書館を利用しにくい方々へのアウトリーチ型事業の充実
- ・電子図書館などオンラインサービスの推進
- ・災害や感染症のまん延等非常時に持続できる図書館サービスの研究
- ・SDGsの17のゴール達成を意識した事業の推進

【振興計画2022策定に向けて】

- ・第二次計画に掲げる基本理念及び4つの方向性を継承するとともに、進捗に遅れが見られる分野の取組を推進し、社会情勢の変化や新たな課題に対応する
- ・ボランティアの方々や学校・家庭・地域、関係機関と連携し、子ども読書活動を推進するとともに、来館が困難な方へのアウトリーチ型事業の充実を図る
- ・従来の紙を媒体とする図書の充実と併せ、オンラインサービスを推進し、来館型・非来館型それぞれの長所を適切に取り入れた図書館サービスを提供する

図書館を取り巻く状況・課題

子どもの読書支援の強化

誰もがいつでも学び続けられる環境

どこに住んでいても身近に届くサービスの充実

オンラインサービスの推進

感染症のまん延など不測の事態への対応

SDGsの17の目標の達成に向けた取組

方向性と施策

方向性1

地域や市民に役立つ図書館となるために

生涯学習を支援する基盤施設としての図書館サービスの充実
人生100年時代を踏まえ、生涯にわたり誰もが主体的に自分らしく学べる機会の充実／人と人をつなぐ居場所、活力を生み出す場づくり／非常時に持続できるサービスの研究

課題解決に取り組む市民の学びをサポート

SDGsの17のゴールを意識した事業の推進／レファレンスサービスの充実・周知／関係機関等との連携による市民の課題解決の推進

地域の歴史や魅力を継承・発信し、未来の地域づくりに貢献

地域情報の蓄積・継承・発信／市民や地元事業者等との連携による地域の歴史・魅力の発掘・発信／将来の災害に備えるため、東日本大震災の記録と教訓を後世に伝承

多様な機関と連携し、「学都仙台」の活力を向上

大学等教育機関との連携／社会教育機関等との連携による市民の多様な学びの支援

方向性2

0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館となるために

乳幼児から読書に親しみ、豊かな感性を育む機会を提供
妊娠期の親への読書支援の推進／絵本を通じた乳幼児と保護者のふれあいの機会づくり／幼稚園、保育所等での読書活動の支援

障害のある子どものニーズに応じた図書館サービスを提供
障害のある子どもが利用しやすい資料の拡充、環境の整備／関係機関との連携によるニーズに応じた取組の推進

ヤングアダルト世代の読書活動、学習活動を支援

中高生の主体的な読書活動のサポート／SNS等を活用した広報の推進／電子書籍も含めたYAコンテンツの充実

学校との連携を推進し、子どもの読書環境、学習環境の向上を支援

オンラインを活用した学校連携の検討／学校と連携した継続的な読書活動や調べ学習サポートの推進

家庭・地域等と連携し、子どもの創造性を育む読書活動を支える環境づくり

家族がともに学びふれあう機会づくり／子どもが本に親しみ継続的な読書活動に繋げる取組／子どもの心を育み、居場所となる取組

方向性3

市民一人ひとりに利用しやすい図書館となるために

どこに住んでいても図書館サービスが利用できる環境の整備
事業者や市民団体等との連携による図書館サービスの研究／移動図書館の安定的なサービス／電子図書館などオンラインサービスの推進

あらゆる人に使いやすい図書館サービスを推進

超高齢社会に即した図書館サービスの推進／図書館を利用しにくい方々へのアウトリーチの強化／国際化社会に対応したサービスの充実

ICT環境の進展など社会環境の変化を踏まえたサービスの提供

電子媒体を活用した発信の強化／関連施設やボランティアとの連携によるITリテラシーに配慮したサポートの強化



方向性4

自らの変革を進める図書館となるために

市民の財産としての資料の計画的収集・保存、活用
利用者のニーズを踏まえ、長期的視野から資料を収集・保存・活用／電子図書館の運営の確立、特色あるコンテンツづくり

めざす図書館像を市民と共有し、ともに図書館づくりを推進
市民協働事業や広報の促進／市民の学びをサポートする地域人材の育成と活躍の場の提供、市民参加の促進

図書館資源を適正に配分・管理し、最大限に活用

公共図書館としての安定的なサービスを提供するための課題解決／来館型・非来館型サービスの適正な運用／費用対効果を踏まえたサービスのあり方の検討、財源創出の手法の研究

図書館サービスの評価・分析を行いながら図書館経営

数値的成果指標の導入・活用／市民による評価や意見の活用

図書館職員に求められる資質と専門性の向上

社会環境や課題の変化を踏まえた職員の資質と専門性の向上／職員間の知識や技術・経験の伝承／マネジメント能力を高め、市民の活動の場を支える職員の育成